

## 優秀賞

### 「かもしれない。」の心がけ

見崎中学校2年 塩見 皓大

私は中学生になってから自転車に乗る時間が格段に増えた。それまでは自転車に乗る機会はほとんどなく、あまり慣れていなかった。スピードもでるし、事故を起こしたら大変なことになると思い、おちついて安全に運転しようと心がけていた。

中学校に入学してから数カ月が経ち、自転車の運転にも慣れてきたある日、危険な出来事が起きた。私が自転車で丁字路を通り過ぎようとしていると、飛び出してきた車とぶつかりそうになったのである。同じような状況になったことは何度もあったが、いつも車が道をゆずってくれて、危険な目に遭うことはなかった。私はその日も車がゆずってくれるだろうと思っていた。しかし、その車は私が来ていることに気づいていなかったのか飛び出してきた。私は急ブレーキをかけ、ぶつからずにすんだ。こんなことが起こらないために私はどのような行動をすればよかっただろうか。

いくつかあると思うが、私が一番大切と思うのは「かもしれない。」という心がけをすることだ。もしもあの日、「かもしれない。」という心がけができていたら、「あの車の運転手は急いでいるかもしれない。」「もしかしたら飛び出してくるかもしれない。」というような想像でき、危険な目に遭うことはなかっただろう。

そして、おちつくということも大切だと思った。まだ自転車に慣れていなかった時のように初心にもどっておちついて運転することも大事だと思った。私は急いでいるときが一番事故が起こりやすいと思うので、「急がば回れ」というように、急いでいるときほどおちついて冷静に運転していこうと思った。

以前私は、学校で自転車事故について学んだ。そしてその他にどんな自転車事故があって、どうしたら防げたか考えてみようと思った。

一つ目は、男子高校生が朝、自転車で歩道から交差点に無理に進出し、六十歳の女性が運転する自転車と衝突し、女性は頭蓋骨骨折を負い、9日後に死亡したという事例だ。この事故の賠償金額は三一三八万円だったそうだ。私はこの事故は、男子高校生がもっとおちついて、周りをしっかり見ていれば起こらなかった事故だと思った。

二つ目は、坂道を下ってきた小学五年生の少年の運転する自転車が歩行中の六十二歳の女性と衝突し、歩行者の女性が死亡したという事例だ。賠償金額は九五二〇万円だそうだ。この事故は小学五年生の少年が「だれかにぶつかったりするかもしれない。」などと想像し、

スピードをおとせば起こらなかったと思う。

このように、一度の気のゆるみから起きた事故で人生が大きく変わることがあると分かった。だから私は、普段から「かもしれない。」ということをお心にかけていこうと思った。